

## 大江健三郎（1935～）

小説家。愛媛県生まれ。1959年、東京大学文学部仏文科卒業。東大在学中の1958年、『飼育』で芥川賞受賞。1994年、ノーベル文学賞を受賞。著書は、『個人的な体験』など多数。



斎藤喜博の島小学校参観したルポである「未来につながる教室」を収録した『厳肅な綱渡り』や『ヒロシマノート』などのエッセイ・評論は、評価が高い。

大江の重要な文学理論として根幹にあるのは、シクフロフスキーの「異化の理論」である。これは、「日常的・実用的な言葉が『異化』させることによって、「文学表現の言葉となる」というものである。

日常的・実用的な言葉は、私たちにとって無意識的、または自動的・反射的なものであり、意識の中に残ることはない。

しかし、私たち読者を、その日常的・実用的な言葉に立ち止まらせ、私たちの意識の中に残す作用が『異化』であり、それが『文学表現の言葉』と呼ばれる、いわゆる芸術の一つの仕掛けである。『異化』による仕掛けがないと文学の意味がないと言われるほど、「異化」は**文学の本質である**とも言える。

私たちの読書、または国語の授業を顧みたとき、自動的・反射的に読んでいることが多いことに気づく。大まかな筋だけ読んで「分かったつもり」になってしまい、「分かり切っている。」と感じるのである。その傾向が授業づくりを困難にしている、と言える。

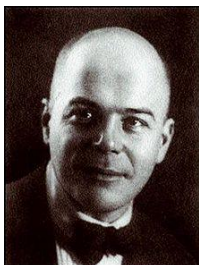
大江の文学理論では、

文学の中には立ち止まるべき『異化』された言葉があり、その言葉を深く読むことが求められる。言葉に立ち止まることで、その意味や、表現されていることを考え、それを自分の意識の中に残していくことが、本当の意味での言葉の学習になる

と考える。

私たちの授業研究は、この大江の文学理論を参考にして進めている。

（森川拓也）



シクフロフスキー